

# 令和7年度新SBIR制度加速事業(フェーズ2) フォローアップ調書の概要

施策名: 省庁連結型SBIR 環境保全研究費補助金  
(イノベーション創出のための環境スタートアップ研究開発支援事業)

施策実施機関: 環境省

令和8年2月

評定  
(自己評価)

**A**

## <目標>

- ・「指定補助金等の交付等に関する指針」に基づき、各評価項目の着実な実行を目指す。
- ・令和6年度、NEDO「SBIR推進プログラム」フェーズ1(POC・FS)研究開発課題番号7「自然環境のモニタリング技術や生態系解析技術の開発」を完了した事業者から選抜し、フェーズ2(R&D)事業の支援をシームレスで行う。

## <自己評価の理由・根拠>

- ・フェーズ1を完了した事業者から3件の応募があり、書面審査・ヒアリング審査を実施し、予算の範囲内で委員の審査結果の上位2事業者(2ヶ年度事業採択)を採択した。
- ・2カ年度事業(R7～R8)の1年度目であり、データ収集のための試作機の完成、機能検証などを今年度に終え、製品化に向けての実証を行い、改良点を確認、またユーザーのニーズを取り込んだものとして、次年度の実証に取り掛かることができるように支援を行った。
- ・本事業の関連分野・技術に専門的な知見を持つ3名の大学教授を審査委員に選任し、うち1名はプログラスマネージャー(PM)に就任いただき審査を実施した。また、事業進行にあたってのアドバイスもいただいた。
- ・早期に事業開始できるように、該当事業者への早期の案内や書類作成の支援等を行うことにより、円滑な応募・審査・採択を実現した。公募開始が7月後半となったが、審査、採択通知は9月中に実施し、事業者は10月より事業着手可能となり、規定内での実施ができた。
- ・各委員には、書面審査、オンラインでのヒアリング審査を実施していただいたほか、各委員の専門分野から見た視点で対象事業の強み・弱み、助言をいただき申請者にフィードバックし、事業を支援した。

評定(自己評価)			
評価項目 1	評価項目 2	評価項目 3	評価項目 4
A	A	A	B

# 評価項目1. 計画に示した取組の着実な実施

評定  
(自己評価)

A

## <目標>

・フェーズ1を完了した事業者に対してステージゲート審査を実施し、「生態系解析技術」「自然環境モニタリング技術」2つの領域を採択する。

## <自己評価の理由・根拠>

- ・フェーズ1を完了した事業者を対象とした公募を令和7年7月～8月に実施。3件の応募があり、書面審査・ヒアリング審査を実施した。
- ・委員の審査結果に鑑み、「生態系解析技術」、「自然環境モニタリング技術」2つの領域より1事業者ずつ(計2事業者)採択することができた。
- ・2事業とも2カ年度の計画の事業として採択した。
- ・採択決定後は、交付確定・事業実施に係る書類作成等の伴走支援を行った。

## 評価項目2. 取組の効果

評定  
(自己評価)

**A**

### <目標>

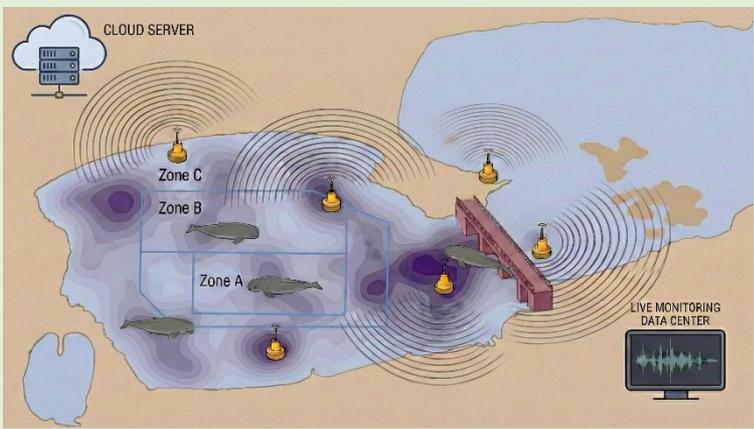
フェーズ1の取組結果を踏まえ、2年間で実用化に係る研究開発等を着実に達成する。その際、研究開発等の進捗や結果を踏まえて必要に応じて適切に研究開発等の目標を柔軟に見直す。

### <自己評価の理由・根拠>

- ・事業開始後の結果を踏まえた事業実施内容のアップデートに対して柔軟に対応を行い、本年度の事業内容を完了できるように伴走支援を実施した結果、おおむね当初の開発目標を達成した。
- ・試作機が完成し、改良を加えながらユーザー向けデモンストレーションを開始できる段階にきており、今後の事業化が期待できる。
- ・採択者からの事業に対する満足度は高い。

# 評価項目2. 取組の効果(採択事例①)

採択者名	Biologging Solutions 株式会社
研究開発課題名	自然環境のモニタリング技術や生態系解析技術の開発
テーマ名	生物多様性可視化のための水中サウンドスケープ観測システムに関するR&D事業
事業期間	令和7年10月10日～令和9年2月28日
事業成果	<p>水中サウンドスケープ観測システムの現場実証</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○水中の音を自動記録・解析し、海洋生物の生息状況や船舶などの人工物をリアルタイムに可視化するシステムの開発。</li><li>○ウミガメに装着可能な小型記録装置(約300g)を開発し、沖縄県にて装着試験を実施。</li><li>○海上に設置するブイ型観測装置の試作機およびクラウドシステムを開発し、タイ王国にて動作検証を行い、現地関係機関との協議を通じて野外での実運用に向けた仕様を策定。</li></ul>
社会実装例	<p>タイ王国ソクラ湖において、世界銀行融資による橋梁建設プロジェクトに伴う絶滅危惧種イラワジイルカの保全モニタリング用途として導入を推進中。建設工事と希少種保護の両立に向けたリアルタイム監視および、生物の位置情報に基づく動的な海洋保護区の設定への活用を目指す。</p>

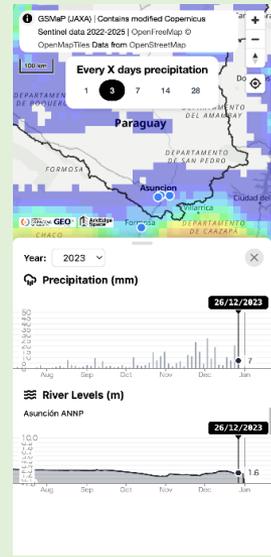


# 評価項目2. 取組の効果(採択事例②)

採択者名	株式会社アークエッジ・スペース
研究開発課題名	自然環境のモニタリング技術や生態系解析技術の開発
テーマ名	多様な衛星を活用した自然環境変化やリスクの検出・分析手法とプラットフォームの開発に関するR&D事業
事業期間	令和7年10月17日～令和9年2月28日
事業成果	令和7年10月よりスタートした事業であり令和8年1月現在目標に向けて事業を遂行している。鹿児島・沖縄の自然遺産や、南米を中心としたグローバルサウス諸国でのモニタリング基盤やアプリケーションの開発を実施している。

**社会実装例**

屋久島での環境モニタリングや、気候変動の影響を受けるグローバルサウス諸国の農業・水資源管理・防災向けアプリケーションを開発中である。  
 右図右は、屋久島での環境モニタリング業務支援アプリケーションであり、右図左はパラグアイ向け水資源管理アプリケーション(ともに開発中のイメージ図)である。



# 評価項目3. 事業体系の構築

評定  
(自己評価)

**A**

## <目標>

- ・外部有識者・専門家からなる審査委員会を構築し、SBIRの趣旨に基づき公平な審査を行う。
- ・フェーズ1からのシームレスな事業支援に向けた事業運営を図る。

## <自己評価の理由・根拠>

- ・公募開始にあたっては、対象となる事業者にも公募開始を通知するとともに申請書類の作成支援を行い応募を促した。
- ・本事業の関連分野・技術に専門的な知見を持つ3名の大学教授を審査委員に選任し、うち1名はプログラスマネージャー(PM)に就任いただいた。
- ・公募終了後には速やかに書類審査及び採択決定の討議のための審査委員会を実施(事業者ヒアリング審査も同日実施)するなど、事業期間の確保に務めた。
- ・各委員には、書面審査、オンラインでのヒアリング審査を実施していただいたほか、各委員の専門分野から見た視点で対象事業の強み・弱み、助言をいただき申請者にフィードバックし、事業の実施を支援した。

## 【審査委員】

早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 教授 小野田弘士 様 \*プログラスマネージャー

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 環境資源工学科 教授 伊坪徳宏 様  
東京大学 先端科学技術研究センター 教授 森 章 様

## 評価項目4.「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施

評定  
(自己評価)

B

### <目標>

- ・「指定補助金等の交付等に関する指針」(以下「指針」という。)に基づき、プログラムマネージャー(PM)の設定、公募の予見可能性及び利便性の向上、申請手続きの簡素化、執行の柔軟化、普及活動等に適切に取り組む。
- ・フェーズ1で採択された研究開発課題に取り組んだ事業者を対象にステージゲート審査を実施し、フェーズ2(R&D)支援事業を実施する。

### <自己評価の理由・根拠>

- ・指針に基づき、フェーズ2の事業期間/事業規模/経費範囲内を設定し、公募を行った。
- ・ステージゲート審査は、書面及び面接にて実施した。事業者によるフェーズ1の事業内容・結果の報告、フェーズ2で実施予定の事業内容に分けのプレゼン、委員からの質疑応答を実施し評価を行い、2事業者を採択した。(フェーズ1において「生態系解析技術」と「自然環境モニタリング技術」領域からそれぞれ2事業者ずつ採択したが、フェーズ2では公平な審査により、それぞれ1事業者を採択した。)
- ・事業者からの効率的に補助事業を実施するための実施計画の変更要望に対して、PMをはじめとする委員より助言を行った。
- ・早期に事業開始できるように、該当事業者への早期の案内や書類作成の支援等を行うことにより、円滑な応募・審査・採択を実現した。公募開始が7月後半となったが、審査、採択通知は9月中に実施し、事業者は10月より事業着手可能となり、想定していた事業実施期間が確保できた。